



平成 30 年 1 月 12 日

各 位

会社名 株式会社 東京 衡 機
代表者名 代表取締役会長兼社長 石川 隆一
(コード番号 7719 東証第2部)
問合せ先 常務執行役員管理担当 猪野 久仁朗
(TEL. 03-5207-6760)

業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

平成 29 年 10 月 13 日に公表いたしました平成 30 年 2 月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正

(1) 平成 30 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	5,100	△20	△40	130	円 銭 1 82
今回修正予想 (B)	5,050	△130	△150	0	0
増減額 (B-A)	△50	△110	△110	△130	—
増減率	△1.0	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 29 年 2 月期)	4,988	13	5	△49	円 銭 △0 70

(2) 修正の理由

平成 30 年 2 月期通期連結業績予想につきましては、下半期において試験機事業の大幅な売上高の伸長を計画しており、同事業については概ね計画を達成する見込みであるものの、海外事業において中国子会社の業績回復が計画よりも遅れていることから、グループ全体では売上高、利益ともに前回予想を下回る見通しであります。また、昨年 7 月に公表しました中国子会社の元役員による不正行為の発覚に伴い、調査委員会の設置、各種調査の実施、過年度決算訂正対応等に関して発生した費用を特別損失として計上しておりますが、平成 30 年 2 月期第 3 四半期連結会計期間における計上額は 26 百万円 (同連結累計期間における計上額は 101 百万円) となり、親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を下回る見通しであります。なお、上記中国子会社については、不正問題発覚以降、再発防止と事業の立て直しに向け体制整備を進めておりますが、安定的な事業構造の構築にはいましばらく時間を要する見込みであります。

以上